菩薩樓集

宇田川榕菴自詠

特別
へ1
5617

歌垣綾磨大人点式

閉蘓紡麻　十五点

倭文環　十点

倭文環　加二　十二点

倭文環　加三　十三点

手纏　七点

手纏　加一　八点

寶玲文庫

57 6042

手纏加一

五

手纏

菩薩樓集

橋

原平氏ゆかりなる所なれば昔をしのぶ花のもと

宰相柿無

於六くしゐ引くゝ驛も程近しゝ君よりうつる所物語

柿をてもなくゝせんとの世柿の盛り先ゝ五十年ゝ以上

雜

かゝの日の山ゝの起ゝをゝゝ見る小藤ゝ居さゝ一鶯のあゝ

夏草

水も影寺夏野ゝ草ゝ百雲よ焼うゝ中せむ家ゝ

夏月

すゝゝゝゝ家ゝ家ゝ山ゝ月ゝの時ゝ見ゝ夏の夜の月

五

夕立

いろはちる村雨しはしはれ見えてなくになかなかたえもとまる夕立の空

五

蟬

松の音は激しき山川の夕風にいる日を待る声ぞすゞしき

手纏 五

寄蟬恋

知らぬ尺は其夕見え葉蟬声借る身の蟬のいろ解かん

七

水雞 負

寄るさ子の我よくもせなるなんさ旅おもしろやたゝく水鶏の戸

早苗 勝

八

小山田に早苗とる身を一刻代畑等体こそ年寄にせん

倭文環加二

早秋

たもとなき我身は今日か八日まで立門にあきぬ秋の初風

倭文環 五

露

連珠の玉かと見えし浅茅生のよもぎふ野の露（かく）

女郎花

倭文環 五

偲ひも馬よりおりしあたらやも折かく女郎花

寄糸恋

葉子なまなるべきものを糸より引かへして宮ふ妹が紐

五

馬

いつの野をぞおろかなる夜月毛なる驪黄の蹄の

槿

秋長判 十
綾十二

春秋菴 八

春秋菴 八

千代の旬の時くゝもて今そ芽ぶ水まさる朝新
宰天子祭無
よいくゝちる迄時と無高くゝそ月稲もすゝけ蓋つる
各所帰雁
なゝふさま四文字まる似る代あるこの山を出えて帰
各所巌
巌もあるとる我もみもとて春の日野を焼ずよりぬる
各所山吹
耳ちゝ此山の山吹甚ハくゝ口なれ以ぎあり
各所五月雨
ふあんあんあ八深んて空をゝ中の山の山目五の雲

草枯

二里先の里屋ゝ寺元三里まて寺ゝ仏ゝ法華
おなゝゝ
枯ゝ草の中かゝひて鉄砲の基屋なりの仏の
おなゝゝ
梅ゝ葉ゝ紅葉ゝの色ゝ
言論の月
雲ゝ月ゝ名ゝ月ゝ
吉原の月
月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
宰子立

十二 倭文環加二

五

月

雁

麻

山

五

本

浦月

蟹一

蛍一

蟹八
蟹一

紅葉

きうの人の秋をこしらへるいとかはるあるをり
又りきをの人の新きけうまむたしをみるまの浦まさば

九月九日

蟹一
蟹八

みるまてをきうの三角のもの祝ひけるれ
酒ひしをいはなどうせむり秋きをみるで流のまきて
うるつば

菊の花

蟹一
蟹九

紙の谷のうの花きてなるぐちれさうして木の枝ぐ
ひをくををて仍るよ社成情うをうして宮をちぬ
ものも

沖釣

蟹一

ちをやうをの日も山の芋けもをぐ沖代のおるん海

蟹一

切れ寺くてうを形み神まをれ今けの橋うをうを琴ひて、

久之丞　元屋へ之一

一祢んををしして約もをや三年君よ祢んのをまを赤身敬
ようをのうを
いをりてをよ年月ひてをや三年をで赤立ををうをうを

業業のうを

サルヒトリ長をを陸山を夜も相のうを人ぬオクリカンキリ

野寺を

河ぐをを陸奥山せ外をを毛雀を鷹代尺てを猫を

河東

かく物ぐをを社をを八日業ぶしまをををを門の猫をく

海路

をれ上る付近の物を方付さすして求るこの道を施
牛　こそよりけり
六玉の自ひよりぬ牛を一ちく立て二升一八合
山月
世を遁る家山住の窓ふ月うみよ引うるとの
宿物　修意
いろいろふ言の葉を西剣作りる墨の意をいふのこ
速脱
墨筆のうるもぬるも物ひ引ぐらるとうる物このふ
九脱ぬ　ぬを買ふ
十四ぬ　ぬ脱ぬ　ぬ脱ぬ　ぬ酔ふ買る松の一とう

初々
宇風ふ家を家ふ
寄魚意
意痩身ふ第ふ八雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ
家意雪味ふ八の合ざるふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ八ふ
山寺月
袋ふ子　猫のむ子ふ八四ひ引て絲のゆるる山寺の月
神乗
意天たく庆の神乗のいづりて八意脱の姿ふ雲や注九ん
積雪
積む雪ふ枯ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ花ふ

永女七

冬月

冬は夜の月は老女のけしきにて雲のおもてにかくれ
ぬるかとあれもたれぞ狩山の陽白一雪の左の白

亀

山吹の玉ぞふ水にすむ亀も家代経るぞ筧生ひぬん

冬祝

鉄炮の音もきまくぬ所代たまくつるの河豚の美

武夫の千ウ川の先陣を吹鳴ぞ嘶き所代ぞ月出

衙

浦路島かよふ千鳥を浦島の桁屋ぞ見る通ぞ

霜

永女八

なまくさぶ沈ちの家長よ来く雲を生ぬ
桑木ぞ庵茶二年辛壱ぞ

稗

永女七

ぬふ稗を稗ふ枕の塵もやまくぬ
ぬ

稲

永女一

ヒーきつの垣ぞ千ちぞ大鬼の裏ぞ
永女五

ちちぶの白稲ぞ尺くく基筆も建筆もとつまれ嫁入り

田婦詞　長野　洞中

蓬鬢荊釵縄為帯昨年嫁来當家粋々今歳取二十五
唯悲此人出助業炎天荷駕傷紅顔憶昔爹山草苅時
婆々川往為洗濁妾亦思之常搗麦畑草内作茶自摘
柳腰比臼大於臼又鶯手足齊于杵蝉眉積糠尚未剥

灌

人丸ノ集ニ入ル歌ノ事ニ系ガ事ニ

皓歯既深牙今剃猶悦去秋盆踊前一本朝鮮請郎買
欲以豆載百両恩為郎新儀大弁慶

宰屠蘇大平楽

玉くしげ　ひのまくらもて　あさの袋よ
明ぬるは　清代のうえれ　名ぐまくらくら
ぶり風の　涙ふるのうぬ　みうしれて
おもてもて　若根よりよ　山よ生てよ
ちその風　不ふるてふ字の　うづまきも　若ぎよりのうそもなり
今の人　冠を立も　長八ーきて
うつまて　秋の秋ふ　字体の山の
山せうれ　辛き世とる　去ぎうれ　花ぬ　ぬ
ゆうれ風雅

山ぐ所ふ字の根をふ山ぐ所ふ生けうふりまやふい
山いしや
雀躍喜ふて　鶏成
咲く花ふ　八解目ふ咲ふ　徒寺ふも　ぬふる　天井蓋
胡蘿蔔を目し　席ふて
朝鮮の烟ふ生し　大根ふて　学長生の色も　又ふ
又同　席ふて　大里色のふ
大里の根ふ　打きしふ　宝の山もなり
宰ふ祝
お　ぬ　つれす　江も　いろ　山ぐふの　糸ふ　ふて　ぐふ　作代ふ　あて　ふ
変のふ

真言
這是天台秘密之語

年垣七

津祢よりも出るや〳〵若水もくむえ三の車井のおと

十一月廿七日 雀躍亭借宴扇開きの席上にて

老の冬の植物といふ題にて

一律を一目ごとに引はえてぞろ〳〵咲く枇杷の花ぞよし

かきるひ

、江戸前の魚の味ハ旅人もかきゑひの上手に用捨せり

、大江戸の新なまハ魚やもかきゑひの上手に用捨せり

松魚

、走りハ浅からぬ勝魚ハ銭をさへ奉る一くさの魚

いまふ

、稲妻の国から来ぬや雷神に捧さがくせる魚もありけり

芝ゑひ

、牛町に近きは海まではりなの車の名をハ買ふ芝ゑひ

伊勢ゑひ

、門松の門出より神風の伊勢ゑひ見るうら白子宿

こち あち 車ゑひ

、あちさいの花の色なる車ゑひ牛の尾の魚[redacted]

かれい

、秋風ハ[redacted]紀の国よりもぞ立なり木条ハいさ咲上の浪

伊セゑひ

の宝白の白子宿とや伊勢ひく四日市まで売見るいせゑひ

松奥

會席全書

、[illegible]

車屋

、酌む酒の四てもらうんせんまひ〳〵酒の年立

、車屋ひぜんまひ〳〵[illegible]

いせ屋

、俳句〳〵[illegible]

、[illegible]

いな

、いな鉤の舟の[illegible]

小舟

おつらの[illegible]小舟の[illegible]

雪

[illegible]

若布雪

[illegible]

[illegible]

答汪友集呼予偶遠麴糵
醉裏陳情〻益真醒来伎倆少精神床頭萬卷能醺
我不信江湖種秫人

丁酉八月十五夜對月

月前有酒百尺流樽而下無詩一種愁秫圃年歉身亦
病無詩無酒倚書樓

舍窓閑宗譯及茅四帙卷首載黄金之離合
太詳偶有感

乾坤寶氣化黄龍蟠屈大駄佐渡峯靈質自嫌形鬼
慳昇天一夜去無蹤

丁酉初秋泛小航於佃港觀海烽火

萬仞柳煙藏緑禽三光霹雳嚇青衿廣寒亦被叢
雷駭幾隊嫦娥降巨浸

雨国橋下作

長橋百尺駕淘泓鞳鞳拍浪龍影清楊柳女仙傳燕語
梨園弟子学鶯声醉醪如蜜醒還醉舴艋肖萍停復行
忽見火烽著一閃繁星爛熳水天明

火女僧天資素質非假脂粉之助青黛圓素無
鬢簪之設日誦經于窓外乞米錢恐戈仁基兄
見頗愛之云博愛謂之仁蓋愛人德淫之所溢也

戲代僧賦一絶

妙年誤斷南華夢百縷袈裟換紫裙切意許君〻勿

笑卿思作兩亭為雲

戲代一蟬暗呈錦腸君

學舞映華翻翠袖法教今日醫紅豆舟簾君

自從多情心緒繁無都今清

隨園先生年喪甘子實明秉者勉以此事相詢

謝為閔切先生深感之有作待亭而做類

鏤行著帑號紙嬰添丁何必閔吼聲大事告野櫻

千樹幸免蓬門不孝名

丁酉十月之望月湖[illegible]蔡金雅集正是坡公再遊赤

壁之日湖清蕭講論[illegible]為東坡錦腸為仁卿

賜之愛姬十芒為佳侶之婦婦跡信賜之西舫此

先生免不孝之名杨相崇不忘幸之完

石街演月白風清無牛口占贈十二紅裙五子

同席諸君

花世聽吟沈世安一輪明月一孤眉顏家曲壁張陶東

陶照酒花多照誰○都名簾中蛇定情笙琴池上

許序名清辰能令錦賜新嫁好佳人家中正○留向

家門開窺戚屋來接好相與花新莊久歡俸姬姒國

外人百蛙鼓鼎

丁酉除夕偶感

竹紫紙窓變俗鄉寒妻也為來之義託硯田數畝俸多

熟廟好殊鑾八快湖[illegible]殺[illegible]海

[illegible]八快故有此作句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

教

猛烈雅意天来[illegible]。[illegible]伝鑽石[illegible]。[illegible]

[illegible]看花約。抛[illegible]起却[illegible]情

[illegible]

保字[illegible]方実為先[illegible]腔[illegible]十字揚[illegible]去念

回接邊鬱[illegible]輕

明治文庫